

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 4 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873800381		
法人名	医療法人 高仁会		
事業所名	グループホームもみの木		
所在地	西予市宇和町上松葉165-1 (電話) 0894-62-7720		
管理者	笹岡エリコ		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 3 月 10 日	評価確定日	平成 20 年 4 月 7 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 2 月 16 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 11 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	13.2 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 2 月 16 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護 1	5 名	要介護 2	5 名
要介護 3	3 名	要介護 4	3 名
要介護 5	1 名	要支援 2	1 名
年齢	平均 86 歳	最低 73 歳	最高 94 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは木造2階建ての建物で、田園の中の静かな場所にある。玄関に入ると木の温もりが伝わり、ほっとする空間づくりがされている。玄関の出入りは自由で、家族や近所の人々が気軽に出入りするような雰囲気がある。管理者及び職員が理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えていることが、利用者の表情や、自分の思い通り自由に自分のペースで過ごしていることからうかがえる。また、ホームは地域行事に参加したり、ホームの行事に参加してもらったりして、地域との交流を深めている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

緊急時の手当てについては、消防署の協力を得て、全員で研修を受け、今後は継続的に研修を行う予定となっている。また、面会簿については個人情報があるので個人個人に記録してもらうように変更し、家族にお願いして馴染みの物を持ってきてもらうよう働きかけ、ホーム単独での防火訓練を行うなど、積極的に改善に取り組んでいる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

今回の自己評価は職員全員で取り組んでいる。自己評価をすることで振り返りや気づきになっており、それらをサービスの質の向上に活かすようにしている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議には、地域住民、市担当者、利用者家族等の参加があり、ホームの行事や利用者の様子を報告したり、意見交換を行っている。質問や疑問などについては、同法人内の老人保健施設相談員などに説明をしてもらったりしている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の訪問時に意見を聞いたり、運営推進会議で意見を出してもらったり、家族会で意見を聞いたりしている。ホームの玄関及び2階にも意見箱を設置している。また、重要事項説明書にホーム側及び公的な苦情相談機関を明示している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

地域の行事(亥の子や祭りなど)に参加したり、五つ鹿踊りを披露してもらったり、ホームの行事にも参加してもらっている。近くの店にも出かけたたり、ボランティアの受け入れも行っており、徐々に地域との交流も増えてきている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームもみの木

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

河野 智

評価完了日

平成 20 年 2 月 16 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念と基本方針にそったサービスに取り組んでいる。 (外部評価) 開設当初からの理念があり、ホーム便りにも毎回掲載している。また、毎月目標を決めて実践している。	※	地域密着型サービス事業所としての理念について、これから地域の中でどう関わっていくか、職員と話し合う予定としている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎月の会議には理念について話し合っている。ケアプランの作成、生活支援においても基本理念に基づいて考え行動するように努力している。 (外部評価) 理念は、玄関や各ユニット内などよく見える場所に掲示しており、いつでも見ることができるようになっている。開設当初から勤務している職員も多く、共有化が図られており、利用者の日々の生活を支えている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念を明示しているが家族会や面会時に話すことの方が多い。又、もみの木通信にも載せている。(年4回送付)	※	家族に了解を得た上で近所や地域に回覧等考えていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) お月見会、七夕祭りなどには近隣の方に声をかけ参加してもらい、日常的な付き合いができるように努力している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域交流である亥の子や夏・秋祭りには一緒に楽しみ、また、事業所の行事にも参加してもらっており、交流機会は増えている。 (外部評価) 地域の行事（亥の子や祭りなど）に参加したり、五つ鹿踊りを披露してもらったり、またホームの行事にも参加してもらっている。近くの店に出かけたり、ボランティアの受け入れも行っており、徐々に地域との交流も増えてきている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 取り組めていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で自己評価することで、できていない所できていることがはっきりわかり意義があると思っている。 (外部評価) 管理者及び職員は評価の意義を理解し、自己評価を全員で行っている。自己評価をすることにより気づいたこともあり、見直すきっかけとなった。外部評価については改善計画を作成し、職員で話し合い、改善に取り組み、サービスの質の向上に努めている。	※	外部評価での改善する部分は、改善できるように努力したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 家族や外部からの意見を聴くことで中から見えないことや、どんなことで困っているかなど参考になっている。 (外部評価) 運営推進会議には、地域住民、市担当者、利用者家族等の参加があり、ホームの行事や利用者の様子の報告や、意見交換を行っている。質問や疑問などについては、同法人内の老人保健施設相談員などに説明をしてもらったりしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市との連携は取っている。行事に参加してもらえるよう声を掛けている。 (外部評価) 市担当者に相談したり、行事への参加の声かけ等は行っているが、まだ、十分な連携が取れているとはいえない。	※	市担当者にホームの実情や取り組み状況を伝えたり、地域との協力体制について相談するなど、共に質の向上に取り組むことが望まれる。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 一度は勉強会をしたが身近問題としては考えられないせいか、協力体制取れていない。活用される利用者もおられない。	※	研修に参加したり、事例などを挙げてもっと分かり易く学習できるように資料を揃える必要がある。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員が虐待のないケアをできるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明をし納得を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの意見、不満などできるだけ取り入れ運営に反映している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時に気軽に意見や要望を出してもらえよう話題を提供し、暮らしぶりを伝えている。又、電話、手紙などで近況報告したり、もみの木通信を送付している。 <hr/> (外部評価) 家族の方は1～2か月に1回は訪問されており、その時に利用者の日頃の暮らし振りについて話したり、金銭出納帳にサインをもらったりしている。電話や手紙で報告することもある。またホーム便り発行時には必ず家族に送っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 重要事項説明書にも明示しているが家族会面会時にも伝えている。 <hr/> (外部評価) 家族の訪問時に意見を聞いたり、運営推進会議で意見を出してもらったり、家族会で意見を聞いたりしている。ホームの玄関及び2階にも意見箱を設置している。また重要事項説明書に、ホーム側及び公的な苦情相談機関を明示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議の時に意見を聞く機会を作っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 生活の流れを支援する為にローテーションは組んでいないが新人職員の夜勤にはベテランと組んだり、不安な場合は二人で組むことがある。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの職員による支援を受けられるようにしている。利用者が不安なく生活できるようしっかりとコミュニケーションを取り早く馴れてもらえるようにしている。 (外部評価) 法人内での異動はあるが、開設当初からの職員も多く、ここ半年間は異動はない。管理者も職員の異動は最小限にするよう配慮している。各ユニット間の交流もあるため、ホーム内で利用者と職員との馴染みの関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勤務の許す限り研修に参加することになっている。研修後は職員会議で発表し全員が周知している。 (外部評価) 研修に参加した職員は報告書を作成し、会議などで全員に周知しているが、段階に応じた研修の機会が少なく十分とはいえない。	※	職員の質の向上のためにも、段階に応じた研修への積極的な参加が望まれる。また法人内でも研修をすることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他のグループホームに研修に行き交流している。	※	研修、交流の機会が少ないので、交流の機会を増やすよう努める。
			(外部評価) グループホーム連絡協議会などに参加し交流を図ったり、個人的に見学したりしているが、他のホームとの交流機会は少なく、十分な交流はできていない。	※	同業者と交流する機会を積極的につくり、勉強会の開催などで連携を図り、サービスの質の向上に向けて相互に取り組むことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員相互の話し合い、チーム会議で希望や意見を出し合っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 理念、基本方針に基づいて向上心を持ち働いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 居宅のケアマネージャー、老健施設の相談員が窓口になっている。見学に来ていただき、話し合っ決めてる。	※	初期の段階から相談など、聴く機会ができるようにしたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 居宅のケアマネージャー、老健施設の相談員が窓口になっている。見学に来ていただき、話し合っ決めてる。	※	初期の段階から相談など、聴く機会ができるようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 居宅のケアマネージャー、施設の相談員が窓口になっているので対応はできていない。	※	初期の相談の場に参加できるように、取り組んでいきたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 徐々にホームでの生活に慣れていただき利用者本人が安心して生活できるように支援している。 (外部評価) ホームへの入所受付窓口は同法人の老人保健施設となっているが、利用者がホームに来られる場合には家族と一緒に見学してもらい、徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者一人ひとりできる事を把握しており、一緒に喜び、感謝している。又、利用者から学ぶことが多く、共に支えあいながら一日を生活ができています。 (外部評価) 毎日一緒に過ごす中で、料理を教えてもらったり、利用者の豊かな経験を聞いたりすることにより、学ぶことや教えてもらうことも多くあり、互いに支えあう関係を築くよう努めている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) お花見、お月見、餅つきなど参加できる場面や機会を多くし、共に支えあえるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時は一緒に食事を勧めたり、遠方から来られた時は、宿泊もしている。本人、家族としっかりと相談し、良い関係を築いていけるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会がない方には、家族などに、電話、手紙などで状態を報告し関係が保てるようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) うまが合う方同志はいい関係作りができています。世話好きな利用者は布団をかけたたり、靴を履かせたり、体調が悪い方を労わったり心配されたりする。孤立しがちな利用者には職員が間に入り関わりを持っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退去先に落ち着くまで訪問し、お互いの情報交換、家族とも話し合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の思いや意向に沿った暮らしができるように努力している。 (外部評価) 日々の暮らしの中で、本人や家族から希望を聞いたり、自分から言えない利用者に対しては表情や職員の気づきなどを話し合って把握するよう努めている。職員は利用者それぞれの「できること」を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査表や、家族などからこれまでの暮らしや生活環境を聞いて把握している。	※	家族等と常に話し合いを取っていききたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、一日の暮らしぶりを介護記録に書いており、把握できている。	※	一日一日の体調に合わせて生活状況が個人のベストな状態で行われるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 面会時に話し合っているが遠方で来られない方には手紙や電話で連絡を取って意見を聞き、反映している。利用者さんには、カンファレンスに参加してもらったり希望を聞いたりしている。(全員はまだ聞いていない) <hr/> (外部評価) 本人及び家族の希望を聞いたり、担当の職員が日々の暮らしの中で気づいたことや意見を採り入れて話し合い、一人ひとりに合わせた具体的な介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月を目安に見直しているが状態が少しでも変われば随時、スタッフで話し合った上で見直している。 <hr/> (外部評価) 定期的に見直しを行い、評価も行っている。また、利用者の状況に変化が見られた場合にはその都度話し合い、家族の意見も聞いて、現状にあった新たな介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日勤帯は黒字、夜勤帯は赤字、変化がある場合は青字に色分けして記録している。個別の様子を明確に記録し情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 事業所間で連携を取り利用者の家族の状況、状態に合わせて、その人に合ったサービスが受けれるように努めている。 (外部評価) 協力医療機関の受診や、他の医療機関を受診する場合に家族が行けない場合は、移送サービスを行っている。利用者の状態に変化があれば、かかりつけ医と連絡を取りながら対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員、ボランティアの方が見学に来たり、共同で何かを作ったりしている。	※	もっと地域資源との協力が必要である。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 実施していない。	※	他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、利用者がより良いサービスが受けれるようにしたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 実施していない。	※	必要に応じて協働できるように取り組んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 希望の医療機関を利用している。 (外部評価) 協力医療機関がかかりつけ医となっている人もいるが、本人や家族の希望によりかかりつけ医を受診してもらっている。受診記録は詳しく記載している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症の専門医ではないが、先生、看護師さんも理解してもらっている。又、近くの協力歯科も馴染みの関係となっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職と相談しながら健康管理に気をつけている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 協力病院以外に家族等の希望により受診している。医療機関とも十分に話し合い、信頼を得ながら協力体制を築いている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 早い段階に家族と話し合いをし、系列の病院、老健施設、家族が希望する所に入所するので重度化、終末期がない状態である。 (外部評価) 看取りの指針は作成されていないが、ホームとして重度化や終末期に向けた方針は決まっており、本人や家族には説明を行っている。状態の変化に応じてかかりつけ医と相談し、家族の希望も聞いて、法人内の老人保健施設や病院、他機関等への転居・転院に対応している。	※	重度化や終末期に対してホームの対応方針を書面化し、入居時に本人や家族に説明を行うことが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 早めに家族と相談し、重度化しない内に、利用者の状態、体調にあった施設・病院に移っている。今後の変化があった時は、どのような終末期を迎えたいのか、家族と話し検討している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 家族と十分に話し合い、情報交換を行い安全に生活できるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーの確保は徹底しており個人情報を口外しないようにしている。 (外部評価) 職員の言葉かけは自然であり、歯磨きやトイレへの誘導もさりげなく行われ、また一人ひとりの要望に合わせて対応している。記録等の個人情報の管理は適切に行われている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 外出の有無、散歩、買い物等の内容、献立、誕生日の食事など希望をしっかりと取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ利用者の希望にそった支援をしている。 (外部評価) 職員がホームの1日の流れを決めているのではなく、利用者一人ひとりのペースを守り、その日の体調や希望に合わせて、本人のしたいことができるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 家族と利用者さんと相談しながら髪型を決め職員がカット、髪染めしている。現在美容院へ行く方はありません。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 彩りを考え、見て楽しむものになっている。食べる前には、献立の説明をし雰囲気作りも工夫している。食事の下ごしらえ、配膳、片付けなどできることを手伝ってもらっている。 (外部評価) 利用者のできることをしてもらいながら、一緒に準備や調理をしている。職員も同じ食事を、おしゃべりを楽しみながら食べている。介助が必要な人には横に座ってさりげなくサポートしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物など、10時、15時のお茶の時間には何種類もの中から選んでもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者全員の排泄パターンを表でチェックしていてそれぞれのパターンに合わせてトイレ誘導している。オムツは使用しないように職員で話し合いそれに向けて努力している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴したい日、時間等、利用者に聞きできる限り希望に添うようにしている。毎日入りたい方は毎日入浴している。 (外部評価) 本人の希望に合わせて好きな時間に入浴してもらっている。夜の入浴を希望する人にも対応している。毎日入る人もいるが、入りたがらない人には声かけを工夫したりして、納得してから入ってもらっている。どうしても嫌がる場合は清拭などで対応している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はできるだけ身体を動かすように支援し、リズムある生活で安眠できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) おかずの盛り付け、テーブル拭き、お茶を入れる、配膳、食器洗いなど利用者がそれぞれに楽しみながら役割を果たすことの支援ができています。 (外部評価) 食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、ゴミ箱折りなど、利用者にしてできることを、その人に合わせて職員が声かけしながら支援している。また散歩や音楽、カラオケを楽しんだり、テレビを見たりして過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と話し合っ、管理できる利用者は自身で金銭管理している。他の利用者は、5,000円程度預かり、面会時にノートをチェックしてもらっている。	※	買い物に出かけた時、利用者が支払う楽しみの援助も行っている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 買い物、散歩、ドライブなど利用者の希望に添って外出支援できている。 (外部評価) 利用者の体調に合わせて散歩やドライブに出かけている。買い物も近くの店など本人の希望によって出かけている。また、ホームの前庭にはベンチが置かれており、天気の良い日には外気浴をするなど外の空気に触れることができるように配慮している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 普段行けない所に出かける機会を作っているが少ない。(少し遠出のドライブなどに行っている。)	※	職員、家族間で相談し機会を増やす。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者に頼まれたら手紙の投函の支援をしている。電話を掛ける時は、ダイヤルの介助や静かな場所で座って、落ちついて電話を掛けれるようにしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時に一緒に食事を勧めたり、遠方から来られたときは宿泊も勧めている。居室では利用者さんと横になったりされリラックスしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束のないケアの大切さを理解し実施している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵を掛けず、自動ドアで自由に開くようになっていいる。夏は自動ドアも切って全開にしている。外出の察知、外出傾向時は職員の連携をうまくとるようにして、外出は付き添っている (外部評価) 利用者の自由な暮らしを大切にし、玄関及び各ユニットの出入り口はいつでも出入りできるように鍵はかけられていない。職員は居間のどこにいても利用者を見守ることができ、利用者の把握ができていいる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常に利用者がどこにいるのか、プライバシーに気をつけ把握している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 洗剤など必要な時だけ出して、後は手の届かない所にきちんと保管できる所に保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 緊急時のマニュアルがあり、全員が内容を周知している。再発防止の為、事故報告書にまとめ、会議や申し送り時報告し、みんなで話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的に行っていないが、急変時のマニュアルは作っている。消防署の方に来ていただき救命処置、人口呼吸、AEDの講習を一回受けている	※	年に何回か、消防署に来てもらったり講習に参加し、応急手当、初期対応に備えたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防火設備や定期点検しており、非難訓練も実施している。近所の方の協力を得る働きはできている。	※	定期的に災害訓練を行い避難できる方法を身につけたい。
			(外部評価) 消防署の協力を得て、地域の住民にも参加してもらい、避難訓練を行っている。2階から実際に布団を使って利用者を下に降ろすような訓練も行っている。緊急連絡網も作っている。	※	定期的な訓練及び夜間を想定した訓練も行うことが望まれる。また、避難経路についても明らかにしておくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりに起こり得るリスクについて、きちんと説明しており、リスクが起きた時はどうするかを家族等と話し合いをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックをしており、体調の変化や異変がある場合は、青字で記録し、職員全員が情報を共有できるようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は個別にケースに保管し、日勤のリーダーがその都度薬を出し、利用者に手渡し、介助している。利用者全員の薬の説明書はファイルに全部閉じている。職員が利用者それぞれの服用している薬の作用、副作用について理解している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝の牛乳やバナナを食べてもらっている。適度な運動や入浴時の腹部マッサージをして自然排便に心がけている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) できるだけ利用者自身にしてもらい細かい部分など出来ていない所は介助し、口腔内を清潔に保っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 系列の管理栄養士にメニューの確認をしてもらっている。又、食後に摂取量を確認し記録している。 (外部評価) 食事はバランスの良い献立をたてている。カロリーチェックは同法人内の栄養士に確認してもらい、アドバイスを受けている。食事摂取量や水分量の把握もできている。利用者に合わせて刻み食やとろみ食にも対応している。	※	食事、外出、入浴時など、事あるごとに水分補給に気をつけている。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染マニュアルを作成しており、職員も感染予防に対する認識が深く、全職員で予防に向けて取り組みができています。	※	戸外から帰るとうがい、手洗いを必ずしている。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日新しい食品を持って来てもらっている。調理器具はハイター等で清潔にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りに花を植えており、威圧感や違和感を感じさせないようにしている。石段とスロープの両方があり、利用者、高齢な訪問者にも優しい作りになっている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 木造建てであり、床も木材を使用しており居室、居間も畳を使っているのが柔らかい感じだと言われる。 (外部評価) 共用空間は木の温もりに包まれてほっとする落ち着いた雰囲気、運営者のこだわりがみられる。居間には季節の物がさりげなく飾られ、利用者はそれぞれ自分の好みの場所で過ごしている。トイレ等も不快な臭いは感じられず、清潔である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間はゆったりとしたスペースでフローには10人掛けのテーブルが設置しており、ゆっくりくつろげる。又、畳のスペースにはこたつもあり、横になったり座ったり、居場所を確保できている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の居室には仏壇や馴染みの写真、家具などが持ち込まれ安心して過ごせるようになっている。 (外部評価) 居室には全室畳が敷かれている。利用者は自宅で使用していた馴染みの家具や写真、仏壇などを持ち込み、その人の個性に合った居室となっており、自宅で過ごしているような雰囲気がある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 利用者の声に合わせて冷暖房を使用し、室温を適切に保っている。個室にもエアコンがあり個別にも対応できる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 玄関には段差がないが身体機能の低下に合わせて椅子を置いている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレ、居室に名前を書き添えており、混乱しないようにしている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 冬場は活動は少ないが、暖かい日は利用者と一緒に草引きや庭掃除をしている。庭やベランダに出られ日向ぼっこする利用者もいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	一人ひとり生き生きと暮らしてもらっている。又、大切に思っている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	食後、おやつ時、ゆっくり話をしたり、歌を唄ったりして、ゆっくり過ごされている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者は自由に生活しており、居室にすることが少なく居間や食堂でゆっくと過ごしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	持てる力を毎日発揮してもらえるようにしている。台所の仕事、洗濯物たたみなど役割をもってもらい、生き生きとしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	地域の催し物、お祭り等行きたいと言われる所へできるだけ出掛けるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の心身の変化、異常発生時など協力病院の先生や看護師に相談している。少しでもいつもと違うと思ったら関わりを多くし、様子を見ている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入浴などできるだけ希望する時間帯に入浴したり、利用者のペースに合わせて安全に生活している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時に会話を多くし、気軽に意見、要望を出してもらえるように話題を提供し、信頼関係を作っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	利用者の近所の方や友達などたまに来られ楽しく話しをされている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	少しずつであるが増えてきていると思う。色々な方の意見、要望が聞け参考になっている。グループホームのことや認知症についても理解が深まっている。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔で仕事が出来ている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	いつも笑顔で生き生きと生活されているので満足できているのではないこと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族からも利用者の表情が明るい等、感謝の言葉をたくさんもらっているので出来ている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームもみの木

(ユニット名)

2階

記入者(管理者)

氏名

笹岡 エリコ

評価完了日

平成 20 年 2 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念と基本方針に沿ってサービスを提供している。 (外部評価) 開設当初からの理念があり、ホーム便りにも毎回掲載している。また、毎月目標を決めて実践している。	※	地域密着型サービス事業所としての理念について、これから地域の中でどう関わっていくか、職員と話し合う予定としている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 管理者及び職員が理念に共感し、理念の具体化に向けて常に話し合いができています。 (外部評価) 理念は、玄関や各ユニット内などよく見える場所に掲示しており、いつでも見ることができるようになっている。開設当初から勤務している職員も多く、共有化が図られており、利用者の日々の生活を支えている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 玄関に運営理念を掲示しており、ホームだよりである「もみの木通信」にも掲載しており、家族や地域住民に理解してもらえるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 管理者及び職員は、日頃から近隣の住人には気持ちよく挨拶できており、事業所の行事には、お知らせをし、参加してもらっており日常的なお付き合いもできている。	※	家族に了承もらった上で、ホーム日より「もみの木通信」を隣近所に配布する。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域行事である亥の子や夏・秋祭りには一緒に楽しみ、また、事業所の行事にも参加してもらっており、交流機会は増えている。 (外部評価) 地域の行事（亥の子や祭りなど）に参加したり、五つ鹿踊りを披露してもらったり、またホームの行事にも参加してもらっている。近くの店に出かけたり、ボランティアの受け入れも行っており、徐々に地域との交流も増えてきている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 出来ていない。	※	「グループホームが地域に貢献できることは何か」を話し合うことから始めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で自己評価することで、出来ていること、出来ていないことをはっきりと認識することで意義がある。 (外部評価) 管理者及び職員は評価の意義を理解し、自己評価を全員で行っている。自己評価をすることにより気づいたこともあり、見直すきっかけとなった。外部評価については改善計画を作成し、職員で話し合い、改善に取り組み、サービスの質の向上に努めている。	※	外部評価での改善部分は、職員全員で改善していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、家族及び推進委員の評価や報告を、今後のサービス向上に活かしている。 (外部評価) 運営推進会議には、地域住民、市担当者、利用者家族等の参加があり、ホームの行事や利用者の様子の報告や、意見交換を行っている。質問や疑問などについては、同法人内の老人保健施設相談員などに説明をしてもらったりしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市との連携はとっており、運営推進会議以外でも、問題の提起、改善の相談に乗ってもらい、質の向上につながっている。 (外部評価) 市担当者に相談したり、行事への参加の声かけ等は行っているが、まだ、十分な連携が取れているとはいえない。	※	市担当者にホームの実情や取り組み状況を伝えたり、地域との協力体制について相談するなど、共に質の向上に取り組むことが望まれる。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会において、一度は職員も理解を深めたものの、実例がない。	※	研修に参加し、事例研究をしていく必要がある。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員が虐待について学んでおり、虐待防止に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明をし、理解・納得を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 声かけを大切にし、話を聞き運営に反映させている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会に来られたときに、詳細に報告し、必要に応じて電話、手紙等で近況報告している。 (外部評価) 家族の方は1～2か月に1回は訪問されており、その時に利用者の日頃の暮らし振りについて話したり、金銭出納帳にサインをもらったりしている。電話や手紙で報告することもある。またホーム便り発行時には必ず家族に送っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 不満を言える雰囲気作りを心がけており、苦情・不満があれば至急対応できるようにしている。(改善策を話し合い実行している。) (外部評価) 家族の訪問時に意見を聞いたり、運営推進会議で意見を出してもらったり、家族会で意見を聞いたりしている。ホームの玄関及び2階にも意見箱を設置している。また重要事項説明書に、ホーム側及び公的な苦情相談機関を明示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議のときに、意見を聞く機会を作っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務の調整は出来ている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの職員による支援を受けられるようにしている。利用者が不安なく生活できるようしっかりとコミュニケーションをとり、早く馴れてもらえるようにしている。 (外部評価) 法人内での異動はあるが、開設当初からの職員も多く、ここ半年間は異動はない。管理者も職員の異動は最小限にするよう配慮している。各ユニット間の交流もあるため、ホーム内で利用者と職員との馴染みの関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勤務の許す限り研修に参加している。研修後は職員会議で発表し全員に周知している。 (外部評価) 研修に参加した職員は報告書を作成し、会議などで全員に周知しているが、段階に応じた研修の機会が少なく十分とはいえない。	※	職員の質の向上のためにも、段階に応じた研修への積極的な参加が望まれる。また法人内でも研修をすることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他のグループホームに行って交流している。	※	交流が少ないので、機会を増やすことでネットワークを作っていく。
			(外部評価) グループホーム連絡協議会などに参加し交流を図ったり、個人的に見学したりしているが、他のホームとの交流機会は少なく、十分な交流はできていない。	※	同業者と交流する機会を積極的につくり、勉強会の開催などで連携を図り、サービスの質の向上に向けて相互に取り組むことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者と職員の希望や意見がよく出る雰囲気作りをしており、これからもストレスのたまらない環境づくりをしていく。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 勤務態度、仕事の段取り、仕振りを把握し、評価を適正に行うことで、各自が向上心を持って働けるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 居宅のケアマネージャー、施設の相談員が窓口になっている。見学に来ていただき、話し合いにて決めている。	※	はじめが肝心であり、不安や求めていることを確実に受け止める。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 居宅のケアマネージャー、施設の相談員が窓口になっている。見学に来ていただき、話し合いにて決めている。	※	はじめが肝心であり、不安や求めていることを確実に受け止める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 居宅のケアマネージャー、施設の相談員が窓口になっているので対応は出来ていない。	※	初期の相談の場に参加するように、取り組んでいく。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 徐々にホームでの生活に慣れていただき、利用者本人が安心して生活でき、馴染めるように支援している。 (外部評価) ホームへの入所受付窓口は同法人の老人保健施設となっているが、利用者がホームに来られる場合には家族と一緒に見学してもらい、徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者本人の出来ることを十分に把握しており、出来ることはしていただき、喜怒哀楽を共有し、ともに生活していくことを基本に1日を過ごしている。 (外部評価) 毎日一緒に過ごす中で、料理を教えてもらったり、利用者の豊かな経験を聞いたりすることにより、学ぶことや教えてもらうことも多くあり、互いに支えあう関係を築くよう努めている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の状況、状態を都度説明し、家族が参加できる行事の中では喜怒哀楽をともに共有し、ともに支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会にこられたときには、昼食をともにしたり、自室で本人を交え家族、職員で話をしており、よりよい関係作りに努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人、知人の面会は歓迎しており、家族への状況報告も怠らず、関係が途切れないようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係は把握できており、孤立しそうな方へは、職員が積極的に関わり、利用者の中で世話好きな方も関わりを持ってもらい支え合うよう努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退去先が落ち着くまで訪問し、お互いの情報交換をし家族とも話し合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いや意向に沿った暮らしができるように努めている。 (外部評価) 日々の暮らしの中で、本人や家族から希望を聞いたり、自分から言えない利用者に対しては表情や職員の気づきなどを話し合っって把握するよう努めている。職員は利用者それぞれの「できること」を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や、本人、家族からこれまでの暮らしや生活環境を聞いて把握している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 介護記録、申し送りの中で職員間で情報を共有しており、把握は出来ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 面会時に家族とは話し合っているが、こられない家族には電話、手紙で連絡を取り、意見を聞き反映している。3ヶ月に一度カンファレンスを行い、介護計画を作成している。 (外部評価) 本人及び家族の希望を聞いたり、担当の職員が日々の暮らしの中で気づいたことや意見を採り入れて話し合い、一人ひとりに合わせた具体的な介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月を目安に見直ししているが、状態が少しでも変われば職員と話し合い、家族に報告し意見を聞き、新たな計画を作成している。 (外部評価) 定期的に見直しを行い、評価も行っている。また、利用者の状況に変化が見られた場合にはその都度話し合い、家族の意見も聞いて、現状にあった新たな介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録は日勤帯は黒字、夜勤帯は赤字、状態変化がある場合は青字で記載し、個別に様子を明確にし、情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 事業所間で連携をとり、利用者の家族の状況、状態に合わせたその人に合ったサービスが受けれるように柔軟な支援をしている。 (外部評価) 協力医療機関の受診や、他の医療機関を受診する場合に家族が行けない場合は、移送サービスを行っている。利用者の状態に変化があれば、かかりつけ医と連絡を取りながら対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員や、ボランティアの方が見学等は来るものの、支援等は市に委ねているのが大半である。	※	民生委員、警察、消防、文化・教育機関にもっと働きかけ利用できるものは利用していく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 活用していない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 実施していない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 希望の医療機関に受診している。 (外部評価) 協力医療機関がかかりつけ医となっている人もいるが、本人や家族の希望によりかかりつけ医を受診してもらっている。受診記録は詳しく記載している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医ではないが、同一法人の病院にて診断や治療を受けられるように支援している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 事業所の多機能性を活かし同一法人の病院の看護職員と相談しながら健康管理に気をつけている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 協力病院とは常に密接な関係を保っており、連携は出来ている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 系列の老健施設、病院があり重度化した場合は家族の希望するところに入所しており、終末期等はない状況である。 (外部評価) 看取りの指針は作成されていないが、ホームとして重度化や終末期に向けた方針は決まっており、本人や家族には説明を行っている。状態の変化に応じてかかりつけ医と相談し、家族の希望も聞いて、法人内の老人保健施設や病院、他機関等への転居・転院に対応している。	※	重度化や終末期に対してホームの対応方針を书面化し、入居時に本人や家族に説明を行うことが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 系列の老健施設、病院があり重度化した場合は家族の希望するところに入所しており、終末期等はない状況である。 今後、変化があったときはどうするかは家族と十分に話し合っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 家族と十分な話し合いをし、担当ケアマネジャーを中心にこれからのケアについて討議し、住み替えによるダメージを最小限にとどめるよう努力している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーは尊重し、個人情報の流出がないよう管理者はじめ、職員には徹底している。 (外部評価) 職員の言葉かけは自然であり、歯磨きやトイレへの誘導もさりげなく行われ、また一人ひとりの要望に合わせて対応している。記録等の個人情報の管理は適切に行われている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 外出の有無、散歩、買い物、食事の献立、誕生日の献立等希望をしっかりと取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりのペースに沿った生活を優先している。 (外部評価) 職員がホームの1日の流れを決めているのではなく、利用者一人ひとりのペースを守り、その日の体調や希望に合わせて、本人のしたいことができるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 家族の希望により、職員が散髪しており、理美容店に行きたい利用者は本人希望の店に連れて行っている。服装については、本人の持っている範囲内で毎日着替えをしてもらっている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえ、配膳、片付けなど出来ることをしてもらっており、食べる前には献立の説明もし雰囲気作りも工夫している。 (外部評価) 利用者にしてできることをしてもらいながら、一緒に準備や調理をしている。職員も同じ食事を、おしゃべりを楽しみながら食べている。介助が必要な人には横に座ってさりげなくサポートしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) おやつは利用者の嗜好を取り入れ、飲み物についても何種類ものの中から選んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者全員の排泄パターンを表でチェックしており、それぞれのパターンにあわせてトイレ誘導している。オムツは使用しないよう職員で話し合い、それに向けて努力している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴したい日、時間等利用者に聞き出来る限り希望にそうようにしている。毎日入りたい方は毎日入浴している。 (外部評価) 本人の希望に合わせて好きな時間に入浴してもらっている。夜の入浴を希望する人にも対応している。毎日入る人もいるが、入りたがらない人には声かけを工夫したりして、納得してから入ってもらっている。どうしても嫌がる場合は清拭などで対応している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は出来るだけ身体を動かすように支援し、リズムある生活で安眠できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 台所仕事、食材取り、歌を唄ったり、散歩したりと利用者がそれぞれ楽しみながら役割を果たすことの支援が出来ている。 (外部評価) 食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、ゴミ箱折りなど、利用者のできることを、その人に合わせて職員が声かけしながら支援している。また散歩や音楽、カラオケを楽しんだり、テレビを見たりして過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族との話し合いで、金銭管理できる利用者は自身でももらい、他の利用者は5,000円程度預かり、家族面会時に領収書とノートをチェックしてもらっている。	※	買い物に出かけたとき、利用者が支払う楽しみも援助していく。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 買い物、散歩、ドライブ等利用者の希望にそって外出支援できている。 (外部評価) 利用者の体調に合わせて散歩やドライブに出かけている。買い物も近くの店など本人の希望によって出かけている。また、ホームの前庭にはベンチが置かれており、天気の良い日には外気浴をするなど外の空気に触れることができるように配慮している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 季節ごとに普段いけないところに外出する機会を設けているが、機会が少ない。	※	家族・職員間で相談し機会を増やす。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙のやり取りは支援しており、電話を架けるときは落ち着いて架けられるよう静かな雰囲気を作ってあげている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも気軽に訪問できる雰囲気は出来ている。訪問時には利用者と一緒に食事もしていただき、居室では横になったりして、リラックスして過ごしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束のないケアの大切さを理解しており実践している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関、居室に鍵は掛けてなく、理解してケアに取り組んでいる。 (外部評価) 利用者の自由な暮らしを大切にし、玄関及び各ユニットの出入り口はいつでも出入りできるように鍵はかけられていない。職員は居間のどこにいても利用者を見守ることができ、利用者の把握ができています。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常に利用者がどこにいるのか、プライバシーに配慮し把握している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品については、徹底して危険を防ぐ取り組みをしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 緊急時のマニュアルがあり、全員に周知徹底している。転倒等あった場合は、再発防止のため事故報告書に基づき会議や申し送り時に話し合いをし、事故防止に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的に行ってはいないが、緊急時のマニュアルは作成している。消防署の避難訓練時に救命処置、人工呼吸やAEDの講習を受けている。	※	消防署には年2回来てもらっており、応急手当、初期対応の訓練を受ける。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防火設備の定期点検は出来ており、避難訓練も実施している。地域の人々の協力も得られるよう普段から働きかけている。	※	避難訓練をもっと実施する。
			(外部評価) 消防署の協力を得て、地域の住民にも参加してもらい、避難訓練を行っている。2階から実際に布団を使って利用者を下に降ろすような訓練も行っている。緊急連絡網も作っている。	※	定期的な訓練及び夜間を想定した訓練も行うことが望まれる。また、避難経路についても明らかにしておくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクについては家族に説明しており、その中で抑圧しない生活の場を提供している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 顔色が悪かったり、物言いがおかしかったりした場合すぐに気がつけるよう、普段の行動把握、声かけ、バイタルチェックにおいて情報を共有し、すぐに対応できるようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は一人ひとりケースに保管し、日勤のリーダーがその都度薬を出し、利用者に渡し介助している。薬の説明書は利用者ごとにファイルに綴じており、職員全員が副作用、用法、用量について理解している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝、牛乳、バナナを摂取してもらう。適度の運動や入浴時の腹部マッサージ、食物繊維を取り入れた献立により自然排便を心がけている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 出来るだけ利用者にしてもらい、細かい部分や出来ないところは介助し、支援している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 同一法人内の病院管理栄養士にメニューの確認をしてもらっている。また、食後に摂取量を確認し記録している。 水分補給は適時行っている。 (外部評価) 食事はバランスの良い献立をたてている。カロリーチェックは同法人内の栄養士に確認してもらい、アドバイスを受けている。食事摂取量や水分量の把握もできている。利用者に合わせて刻み食やとろみ食にも対応している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染マニュアルを作成しており、職員も感染予防に対する認識深く、全職員で予防に向けて取り組みが出来ている。（うがい、手指の消毒）		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎朝その日の食材は業者に持ってきてもらっており、在庫の食材はない。調理用具、調理機器は毎回ハイターできれいにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関回りに花壇があり、威圧感や違和感はないようにしている。階段とスロープ（バリアフリー）があり利用者が安心して出入りできる。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 木造で作りはバリアフリーとなっている。床も木材であり居室はタタミで利用者にとっては居心地がいいと思われる。 (外部評価) 共用空間は木の温もりに包まれてほっとする落ち着いた雰囲気、運営者のこだわりがみられる。居間には季節の物がさりげなく飾られ、利用者はそれぞれ自分の好みの場所で過ごしている。トイレ等も不快な臭いは感じられず、清潔である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有空間はゆったりとしたスペースであり、10人がけのテーブルとたたみのスペースがある。体を横にしたり、座ったり、思い思いの場所が確保できる。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には馴染みの写真、位牌、使い慣れた家具等が持ち込まれており、心地よく過ごされている。 (外部評価) 居室には全室畳が敷かれている。利用者は自宅で使用していた馴染みの家具や写真、仏壇などを持ち込み、その人の個性に合った居室となっており、自宅で過ごしているような雰囲気がある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 利用者の要望で冷暖房を使用し、室温を適切に保っている。個室にもエアコンがあり個別にも対応できる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差のない建物であり、安全で自立した生活が送れるよう優しい設計になっている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室入口に目印や名前を書いており混乱のないようにしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 暖かい日は、建物周りは土であり、草引きをしたり、花壇を作ったり、ベンチで雑談したりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者一人ひとりが生き生きと暮らしてもらっており、また、大切にしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	昼食後やおやつ時に雑談したり、歌を唄ったりして、ゆったりと過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	居室にすることが少なく、共有室の居間で思い思いに過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	共同生活の場であり、台所仕事、洗濯物たたみなど他の利用者の役に立つことで生き生きされている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	地域の催し物、お祭り等行きたい所に出かけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	併設病院、協力病院の医師に相談しており、医療面、安全面で不安はない。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入浴時間帯は本人の希望時間帯を優先し、散髪等も希望の店があれば連れて行き要望に応じた生活をしてもらっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時に、気軽に要望が言える雰囲気を作っており、話題を提供し信頼関係を築いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	利用者の近所の方や、友人がたまに来られ楽しく会話されている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議のおかげで、推進委員の知人等も来訪され、意見・要望も聞け参考になっている。また、認知症のことについても理解が深まっている。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者を介護し、利用者の笑顔を見ることで癒され、明日の糧となり、活力ある職場となっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員はよく対応しており、利用者も生き生きとされており、満足されていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族から、利用者の表情が明るい等、感謝の言葉をよくいただく。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)